

HELLO!
SENPAI

夢を叶え
フィリピンで
サッカー選手に!

セブンイレブン選手
濱琳太郎さん

【研究のススメ!】
食品に秘められた
意外な成分に迫る

【研究のススメ!】
外国人に日本語を教える
その意義と楽しさ

【HELLO!SENPAI】
夢を叶えフィリピンでサッカー選手に!

【ピックアップ高知大生】黒潮祭実行委員会

【カケル大学】本山町×次世代地域創造センター

Kochi University TOPICS



高知大学
Kochi University

TAKE FREE

2025年8月2日(土)・3(日)

高知大学オープンキャンパス2025開催

朝倉キャンパス	8月2日(土)／人文社会科学部・理工学部 3日(日)／教育学部・地域協働学部
岡豊キャンパス	8月3日(日)／医学部
物部キャンパス	8月3日(日)／農林海洋科学部



詳細はこちら

参加申し込みや詳細は高知大学受験生サイトから7月初旬頃公開予定です。
本学に関心をお持ちの受験生や保護者の方はぜひチェックしてみてください!

合同進学説明会開催の日程

4月 9日(水) かるぽーと	6月 4日(水) 新阪急高知
4月17日(木) 高知城ホール	6月 6日(金) 高知城ホール
4月23日(水) 高知城ホール	

※詳しくは高知大学受験生サイト「進学相談会」ページからご確認ください。

もっと高知大学を知るために!

●動画で見る高知大学

「YouTube」・「夢ナビ」で学科紹介や講義動画を視聴できます。



●デジタルパンフレット

大学のパンフレットや各学部のパンフレットを閲覧できます。



公式SNSで情報発信中!

イベントの情報やキャンパスライフなどをご紹介!学生広報スタッフによる投稿もあります。



高知大学のラジオコーナー

FM 高知 81.6MHz
「Monthly 高知大学」【毎月】第4金曜日10時15分～

高知大学の教育・研究・地域貢献等の情報をFM高知でお届けしています。
ラジオ聴取用アプリ「radiko」をダウンロードしていただくと、スマホやパソコンで全国どこでも視聴していただけます。

YouTubeで配信中!



放送中



高知大学たんねる舎 ～いつまでも学びたい、を応援するラジオ～

この番組は、いつでもどこでも、いつまでも楽しく学び続けていきたい皆さんを応援します。「たんねる」は幡多弁(土佐弁)で、「調べる」、「探究する」、「訪れる」という意味。「たんねる舎」は、「知を探究し、知を訪れる学びの場」という想いが込められています。

YouTube、Podcastで配信中!

高知大学

たんねる舎

いつまでも学びたい、を応援するラジオ。



「高知大学マガジンSRU」アンケートご協力をお願い

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で3名の方に高知大学オリジナルグッズをプレゼントします。(当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます)

回答期限: 令和7年7月31日

こちらを
チェック▼



微生物発酵茶を生産するタイとの交流

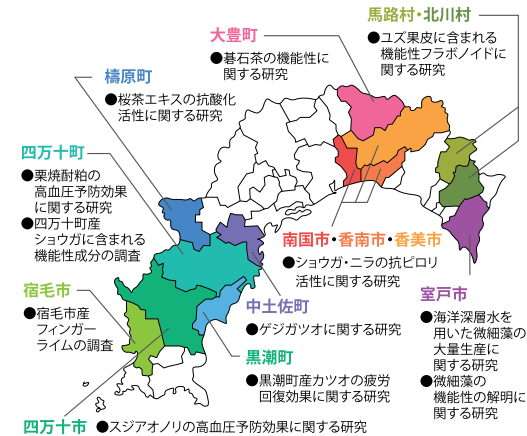
高知県の特産品のなかでも、長期にわたって取り組んでいる研究テーマが碁石茶。医学部とも連携を図り、もう20年ほどとも研究を続けてきました。

碁石茶とは、高知県山間部の大豊町で生産され、希少価値から「幻」といわれる微生物発酵茶。お茶の葉をカビで発酵させ、さらに乳酸菌で発酵させて作ります。飲む人は「健康にいい」と口を揃えますが、それがなぜなのかわからない。島村先生は食品化学の手法により、その謎に迫りました。「碁石茶にはもともと、緑茶と同じく、抗酸化作用の高いカテキンが含まれています。しかし、分析してみると、発酵の過程で分解されて別のポリフェノールに変化したり、大きな分子の物質になったりしています」と島村先生。こうした成分変化が、碁石茶ならではの機能性を生み出している可能性があるといえます。



マイクロマトの乾燥実験 碁石茶

県内各地で地域食材の機能性を分析



私たち、研究室で頑張ってます！

大学院 農林海洋科学専攻
農芸化学コース1年

いのうえ ほのか

井上穂音さん (写真左端)

碁石茶に含まれている機能性成分の脂質抑制効果が研究テーマです。効果自体はマウスなどの研究で明らかになっていて、それが細胞レベルでどのようなことが起こっているのか解明したいと思っています。研究はトライアンドエラーの連続。徐々に結果が出るところに面白みを感じています。

大学院 農林海洋科学専攻
農芸化学コース1年

まつもと ゆきや

松本将弥さん (写真左から2番目)

マイクロマトに含まれている有効成分、エスクレオサイドAを調べています。一般的な大玉トマトやミニトマトと比べて、含量が高いことがわかってきました。研究の進捗度はまだ、100のうち5くらい…。でも、1年後には70くらいまで引き上げようと頑張っています。

農林海洋科学部
農芸化学科4年

いわた りさ

岩田莉沙さん (写真右から2番目)

松本さんが4年生のときに行っていた碁石茶の研究を引き継ぎ、生産者や製造年度によって、成分にばらつきがないのかを調べています。目に見えてちゃんと数値化されたときには達成感を覚えます。研究室で学んだことを生かして、卒業後は食品会社で商品づくりに取り組んでいます。

農林海洋科学部
農芸化学科4年

かとう ひなこ

加藤緋那子さん (写真右端)

2分子のアミノ酸が脱水縮合した「環状ペプチド」を合成し、1つ1つの物質に分けていくという、ちょっと難しい基礎系の研究に取り組んでいます。大学院に進学したら、高知県産のワインをテーマにしたい。味や成分を分析して、他の国産ワインや海外産ワインとの違いに迫りたいと思っています。



(上) 香氣成分のデータ解析の様子
(中) 味分析方法のレクチャーの様子
(下) タイ・チェンマイでの碁石茶研究の発表の様子

日々、さまざまな食品と向き合つて、成分を分析している島村智子先生。専門とするのは、食品化学と食品機能学です。「食品化学とは、食品中の成分を調べたり、加工したときにその成分がどう変化するのかを追求めたりする学問。そういった成分が体に入ったとき、どのように作用するのかを調べるのが食品機能学です」と説明します。

食品のなかでも数多く扱っているのが、高知県が誇る農産物やその加工品。それらの成分を分析し、新しい魅力を次々に発見してきました。「最近の研究で面白かったものの1つは、早掘りのシヨウガですね」と島村先生。シヨウガは春に植え付けて、晩秋に収穫。保冷庫で保管し、順次、出荷されます。

早掘りしたものを出荷できればコスト削減が可能ですし、早掘りシヨウガならではの風味も期待できました。そこで、早掘りシヨウガの商品価値を調べようと、成分を分析することに。「シヨウガにはジンゲロールという辛みや機能性にかかわる成分が含まれていますが、早掘りシヨウガについては誰も調べていない。6月から1か月ごとに掘り出して分析しました」

実働部隊は研究室の学生で、日本一の産地、四万十町のシヨウガ畑まで行き、収穫させてもらうことからスタート。「掘ったシヨウガを持ち帰り、細かく刻んでミキサーにかけて、抽出液を分析にかけました。シヨウガの香りをガラス瓶に閉じ込めて分析もすべて学生が行いました」

分析した結果、小さなシヨウガにもジンゲロールは含まれていて、シヨウガらしい香



(上) シヨウガ畑での収穫の様子
(右) 香氣成分分析装置

農林海洋科学部 農林資源科学科
総合科学系 生命環境医学部 教授

島村 智子

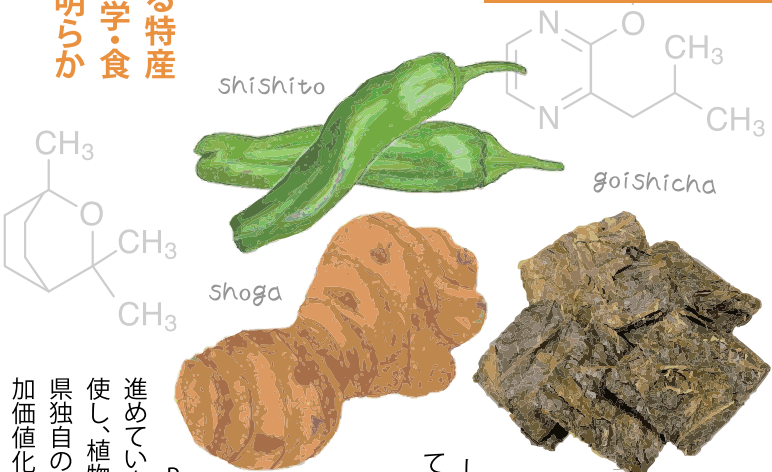
高知県生まれ。高知大学農学部生物資源科学卒業。愛媛大学連合農学研究科修了。博士(農学)。「コツコツ実験してデータを積み重ね、それを見た目でわかりやすいグラフにすると、すごく達成感を覚えます。その楽しさが、研究を続けている1つの動機かもしれません」



食品に秘められた 意外な成分に迫る

普段よく食べているものには、あるいは地域が誇る特産品には、どういった成分が含まれているのか。食品化学・食品機能学の研究者、島村智子教授は意外な正体を明らかにしてきました。

早掘りしたシヨウガは
味や香りがどう違うのか？



「辛くないシントウ」は、
本当にシントウなのか？

島村先生は、高知大学が進める「IOP (Internet of Plants)」に関連する研究も進めています。IOPとはIoTやAIを駆使し、植物の情報の「見える化」を図る高知県独自の取組です。課題の1つである「高付加価値化」をテーマに、「辛くないシントウ」を研究対象にしました。シントウは辛く

りがあることがわかりました。辛みがマイルドなことも判明。生産者の方からは繊維質が少なく、食べやすいという意見も聞かれました。そうした早掘りシヨウガを東京のイベントで販売したところ、多くの方に興味を持っていただくことができました。

「県が開発したシントウが辛くないのは、辛さのもとであるカプサイシンを作る遺伝子を持っていないからです。でも、それだとピーマンと同じでは？」と思う人がいるかもしれません。そこで味や香りを分析したところ、ピーマンとは似ても似つかずシントウとほぼ同じ数値を示しました。辛くなくても、間違いなくシントウだったんです。また、従来のシントウと同様のポリフェノールもしっかり含まれていました」

シントウはマイナーな野菜で、詳細に研究された例はあまりないとのこと。こんなに真剣にシントウの成分を分析したのは、世界でも多分、うちの研究室だけでしょう」と島村先生は話します。

渡辺先生がまず行ったのは、発音の特徴を明らかにすること。ロシア語を母語とする人は、どういった発音が不得意で、それを直すにはどう指導したらいいのか。調べるうちに、苦手とする発音があることがわかってきました。例えば、千円(せんえん)が千年(せんねん)に、禁煙(きんえん)が記念(きねん)に聞こえやすい。『ん』の音が母音とつながって、違う言葉になってしまっんですね。音の強弱のアクセントも独特で、これも発音がわかりにくい原因になっていましたと渡辺先生。こうした傾向がわかれば、教育に役立てることができる。

ペラルーシでの研究では、発音の評価の基準が日本語教師と一般の日本人で違うことも明らかにしました。『教師のほうが厳しくなりがちだっと思ってませんか?でも、調べてみると、特徴によっては教師のほうが甘く評価する場合がありました。教師は、この程度発音でよかったらわかってもらえるから大丈



ペラルーシでの授業の様子



夫だろ?と、考えてしまいがちなんですね。でも一般の日本人の感覚では、もっと評価が厳しくなる場合があります。こうした感覚は、日本語教師も大事にしなければいけないと考えます。

外国人に日本語を教える時に、難しい点はたくさんあるとのこと。たとえば、ペラルーシの人も苦手とする「ん」の発音。じつは、日本語の「ん」には6種類もの音があるそうです。温泉「案内」「みかん」「3枚」「3人」「3階」。これらの言葉に含まれている「ん」は、実際に発音してみるとわかりますが、口の中の舌の使い方が微妙に違います。

『ん』を指導する場合、口の中の状態を絵にして舌の位置を示したり、舌の正しい位置を知るために舌をスプーンで押さえたりします。ほかに『切手』のような小さい『つ』や、『コビー』のような伸ばす音についても、母語の影響が残ります。日本語教師にとって指導が難しい発音の1つです」

日本語教育を学んでおけば、外国人との交流で役に立つ!

人文社会科学部
人文社会科学系
人文社会科学部 准教授
わた なべ ひろ み
渡辺 裕美

福井県出身。大阪教育大学卒業。日本語学校・専門学校日本語科専任講師、青年海外協力隊日本語教師隊員としてキルギス赴任を経て、筑波大学大学院へ。在学中、国際交流基金日本語専門家としてペラルーシ赴任など。大学院修了後、滋賀大学特任准教授を経て高知大学へ。「日本語教育を学べば、最近よくいわれる『やさしい日本語』も使いこなせるようになりますよ」



発音を教える際に参考にするアクセント辞典など



技能実習生に対する日本語支援活動の様子

「学生時代、イギリスに語学留学したとき、いろいろな国の学生に英語を教える英語教師の授業を受けて、とても面白そうなお仕事だなと思いました」と渡辺裕美先生は振り返ります。日本人に置き換えると、日本語教師。大学卒業後に改めて学び直し、以来、外国人に対する日本語教育に携わってきました。

近年、グローバル化が進み、国内に暮らす外国人が急増していることから、国は日本語教師の養成に力を入れています。2023年に日本語教師の認定などに関する法律が成立。2024年4月から施行され、「登録日本

外国人の増加に対応し、国家資格になった日本語教師

語教員という国家資格も誕生しました。高知大学では1998年から「日本語教員養成課程」を設け、長年、外国人に日本語を教える人材づくりに努めてきました。渡辺先生はいま、「外国語としての日本語などの授業を受け持っています。この課程の14科目26単位を取得すれば、国家資格の基礎試験は免除。次いで、授業での振る舞いや学習者の発音上の問題点などを問われる応用試験に合格すれば、登録日本語教員に認定されます。

「高知大学ではインドネシアをはじめ海外に協定校があり、そこで日本語教育に携わる機会があります。私のゼミの学生も海外に留学し、貴重な経験をしています」と渡辺先生は話します。



外国人に日本語を教えるその意義と楽しさ

なぜ、「千円」が「千年」に? 発音に関する音声教育を研究

外国人に対する日本語教育のなかでも、渡辺先生が専門とするのは音声教育。東ヨーロッパの内陸国、ペラルーシの大学に日本語の専門家として派遣されたのが研究のきっかけになりました。その大学では、発音を指導する音声教育のニーズが高く、それに特化した授業を担当してほしいと頼られました。当時の私にはそういった経験はないので、ペラルーシ人の先生や、現地で長く教えている日本人の先生に教えるを請おうと考えました」

しかし、そういった先生たちから、「発音指導をした経験がないからわからない」「発音特徴は2つ3つわかるけど、そのほかは」といった答えが返ってきました。そこで、渡辺先生は音声教育に関する資料や研究を探します。ところが、英語や中国語など、学習者の多い言語を対象にした報告はあっても、ペラルーシで使われているロシア語が母語である人を対象としたものはあまりありません。それなら、ロシア語を母語とする人に役立つ資料を自分が作ろう。そう考えて、発音の研究に取り組むようになりしました」



日本語の専門家として海外で活動していた頃の渡辺先生(いずれも左端)(上:キルギス 下:ペラルーシ)

活躍する高知大学の先輩に
会いにいきました！

HELLO! SENPAL

Vol.7

教育学部卒
フィリピンフットボールリーグ
セブFC選手
濱 琳太郎 さん

夢を叶え
フィリピンで
サッカー選手に！

大学で全国大会に出場し、
プロのサッカー選手に！

子どもの頃から、プロのサッカー選手になるのが夢だった濱琳太郎さん。高知大学サッカー部のキャプテンとしてチームをまとめあげ、フィリピン・フットボールリーグのセブFCにフォワードとして加入しました。単身で渡った異国の地で、着実にキャリアを重ねています。

初めてサッカーチームに入ったのは小学校1年生のときでした。中学・高校はもちろんサッカー部。高校生のとき、県大会の決勝まで進んだんですが、負けてしまいました。プロになりたいという夢もありましたが、もう無理かな。と。その一方で、全国大会に出たらスカウトの目に留まるのではとも思いました。

1年の浪人後、濱さんが進学先に決めたのは、四国屈指のサッカー強豪である高知大学でした。サッカー部は100人を超える

という思いもありました。教科は授業でいちばん面白みを感じた家庭科です。子どもたちとの交流は、部活でも行いました。サッカー部では以前から、幼稚園児や小学校低学年を中心にサッカー教室を開いていて、これらに積極的に参加しました。



高知大学少年少女サッカー教室の様子

海外に目を向けると、
夢を叶える道が拓けた！

サッカー部で練習に励むなか、プロになりたい、という気持ちで日に日に膨らんでいった濱さん。4年生のときには、就職活動はまったくしないで、プロの練習やトライアウトに参加。しかし、所属先は決まりません。

自分で決めていたラインは※JFL以上でしたが、なかなか合格にはならなくて。日本では難しい、もう海外しかない、と思ったのが4年生の12月。大学の先輩にその気持ちを伝えると、いくつかのお話をいただきました

※JFL／日本フットボールリーグ。Jリーグに次ぐアマチュアサッカーの頂点。

大所帯。A B C Dの4チーム編成で、濱さんはCチームからスタートしました。

入学当初は苦労しました。1年間のプランクで、体重が10kgほど増えていたんですよ。とにかく一歩ずつ上がっていかないと、監督やコーチに練習や試合でアピールしました。

念願だった全国大会には1年から4年まで出場でき、中四国の選抜選手にも選ばれました。周りにはみな、プロを目指している選手ばかり。スカウトマンが何十人も見ている前で試合をし、プロを目指したい気持ちで改めて湧き上がってきました。

サッカーだけではなく、学業でも結果を出さなくてははいけません。選んだのは教育学部。大学受験の前、サッカー選手以外の将来も考えて、最初に浮かんだのが学校の先生でした。

教育学部に進学したのは、子どもが好きだから。高知大学出身だという高校のサッカー部監督のような先生になりたい、

した。そのなかで、フィリピンのセブFCだけがプロリーグだったんです。もうセブしかない、これがダメだったら、日本の地域リーグでやろうと決めました。

濱さんが2週間の期限付きトライアウトに参加したのは1月20日。卒業論文も仕上げておらず、合格してもいったん帰国して、改めて準備しようと思っていた。ところが事態は思わぬ方向に進んでいきます。

トライアウトが終わったら、オーナーが「前は合格だ。このままセブにいろ。もうリーグが始まるから」と説き伏せられて。2週間滞在する支度しかしていなのに、それから半年、セブから出られなかった。卒論発表も卒業式もオンラインで参加しました。

サッカーで完全燃焼したら、
学校の先生になるのが目標

セブFCは専用スタジアムを持ち、リーグでも常に優勝争いをするサッカークラブ。濱さんは夢だったプロサッカー選手の道を歩み始めました。セブではまさにサッカー漬けで、世界的な観光地なのにまだビーチに行かないそうです。

最初にあげた得点はダイビングヘッドでした。別の選手のシュートがゴールの枠に当たり、跳ね返ったところに頭から突っ込みました。とても泥臭い、自分らしいゴールだったと思います。

サポーターからは「ハマ」と呼ばれて、試合のあとに出待ちされることもあります。



(上) 大学時代、試合前恒例のグータッチ。
(下) 大学4年のときにサッカー部主将に就任。プレッシャーと戦った一年だった。

はま りん た ろ う
濱 琳太郎 さん

兵庫県神戸市出身。2023年、高知大学教育学部を卒業し、フィリピン・フットボールリーグのセブFCに加入。現在、4シーズン目。ポジションはフォワードで、好きなサッカー選手は岡崎慎司選手。将来、サッカー選手引退後は、家庭科の先生になるのが目標。

セブFCのオフィシャル
ウェブサイト



濱さんの
インスタグラム



中学生のときに考えてから
ずっと使っているサイン

初めてサインを求められたときには、ああ、プロになったんだなって感慨深かったですね。サインは一応、中学生のときに考えていました(笑)。子どもを対象にしたサッカースクールもあって、「ハマを目指している」なんて言ってもらえると、その子たちのためにもしっかりプレーしたいと思います。

セブFCで2年間、4シーズンを戦い、アジア大会には2回出場した濱さん。チームを引っ張るフォワードとして、10得点を叩き出したシーズンも。これから、どのようなキャリアを考えているのでしょうか。

見ている人、プレーしている人の感情を揺さぶる選手になりたい。自分が考えるこの理想像に、ちよつとずつ近づいてきたように思います。もつと大きな舞台で体現するため、ひとつの目標として、サッカー熱が非常に高いインドネシアに移籍したいですね。

サッカー選手の先には、教員になりたいと考えています。いまの経験を活かすために、日記やサッカーノートに自分の考えを書くことを心がけています。海外での選手としての生活は、将来、子どもたちと接するうえで必ず役に立つはずです。

やりたいことを決め、思い切った道を選び、人生を切り開いている濱さん。高知大学の学生や受験生にメッセージをいただきました。

自分が海外に出て思ったのは、国の数だけ可能性があるということです。一歩外に出ると、ものすごく世界は広がっています。



フィリピンフットボールリーグ、セブFCでの活躍の様子

HELLO! SENPAI

みんなの思いの結晶 「黒潮祭」

黒潮祭実行委員会

達成感はもちろん、企業の方や大学職員の方などと交流もでき自分の見たことのない世界が見えると思います。

新1年生の皆さんにも協力してもらいたいののでぜひ参加してください。
黒潮祭を盛り上げる体験は委員会だからこそ！



高知の良さが伝わる 大学祭にしたかった

毎年、秋の2日間に開催される高知大学の大学祭、「黒潮祭」。サークル活動の展示や模擬店の出店、よさこいサークルによる演舞などが行われます。学生が主体となって取り仕切るのが、今回紹介する黒潮祭実行委員会（以下、委員会）。昨年、第74回黒潮祭で委員長を務めた神崎創太さんと、現委員長の伊野部鈴奈さんに話を聞きました。

「僕らの代の委員会では、黒潮祭を中心にさまざまなイベントの企画運営を行っていました」と神崎さん。“僕らの代”と強調するのは、中心となる2年生が活動方針を決めることになっているからです。「他大学と合同のイベントを行うなど、去年の活動はイベントサークルといっても過言ではありません」と笑います。

黒潮祭の企画から当日の運営まで、大学との打ち合わせや協賛企業の募集、ゲストの出演交渉など、やらなければならないことは山ほどあります。伊野部さんら1年生も、先輩とともに準備に励んだといいます。

第74回黒潮祭で神崎さんの代がこだわった思いは、高知の良さを伝えることでした。「高知大学は、高知県外出身者が



屋外ステージでよさこい踊りを披露する様子

多い大学です。学生たちに少しでも高知に興味を持ってもらったり、卒業後に高知に戻りたいと思ってもらえたりするような、地方に根差した大学祭にしたかったのです」と神崎さん。よさこいステージの企画や、高知の食材を使った「土佐の一皿」というイベントを行うなど工夫を凝らしたそうです。



土佐の一皿

「地域の定番」と言われる 祭りに引き上げたい

今年行われる第75回黒潮祭を引き継ぐのは、伊野部さんたち1年生のメンバー。すでに、企画内容の検討を始めています。「75回という節目を迎えるので、そこを押し出した企画にしていきたいと思っています。よさこいのステージといった長く続いている企画など継続するものと、新たに作るものの両方を、75回で実現していこうとメンバーで話し合っているところ。『朝倉の定番の祭り』と地域の人に言われるようになりたい」と意気込みを話します。

黒潮祭以外にも、新入生歓迎のサークル紹介イベントである「卯月祭」や学生によるチャリティーイベント「学生がつくるわかさマルシェ」などの主催イベントに加え、

他団体主催のイベントにも参加し、その準備に追われることも多いといいます。

「確かに忙しい時もあるし、黒潮祭前日まで不安で眠れない日があったほど。でも当日は本当に楽しかったし、運営に関わってよかったです。1年2年関係なく、みんなで全力で動いて行動できた。やり切ったと思えました」と振り返る伊野部さん。神崎さんも「運営する自分たちも黒潮祭を楽しむことができたのが、自分としてはとてもうれしかったですね。自分のやりたいことを楽しめながら、企画や運営ができるというのは、下の代につなげられたんじゃないかな」と納得の様子でした。

第75回黒潮祭がどんなお祭りになるのか、今から興味津々です。



第74回黒潮祭実行委員長
教育学部2年
神崎 創太さん

第75回黒潮祭実行委員長
人文社会科学部1年
伊野部 鈴奈さん

黒潮祭実行委員会メンバー募集中!



お問い合わせはSNSのDMから!

「カケル大学」
高知の全部が
学びのフィールド vol.6

本山町× 次世代地域創造センター

まちの元気を取り戻す 仕組みづくりのひと役!

高知大学の知見や外部の人材をまちづくりに活かす取組が、本山町で始まっています。地域と大学の連携が、まちの活性化に何をもたらすのか。新しい視点でまちづくりに臨む、この取組を紹介します。

必要なリソースを 町に集める仕組みとは

水と緑の豊かな山里 本山町は高知県の中央北部に位置する中山間地域。多くの自治体同様、高齢化と人口減少の課題を抱えています。2024年、高知大学と本山町は地域の活性化を目指して、包括連携協定を締結しました。

「本山町の中心市街地の活性化を目指した『まちなか活性化計画』を進めるためのリソース、民間資金と人材が不足している状況の解消を目指して、高知大学と本山町で現在『大学地域共創プログラム』の開発を進めています」と話すのは次世代地域創造センターの梶英樹講師。大学と地域を結ぶ地域コーディネーターとして本山町に10年以上常駐し、今回の連携の担当教員としてけん引役を担います。

プログラムは、ふるさと納税財源の一部を活用して活性化を後押しするための仕組みづくりで、民間資金の調達支援、事業助成プログラムの開発及び運営、交流・関係人口の創出及び拡大を行います。「町内だけでまちづくりを考えていては、リソースがどんどん減って行き詰ってしまいます。町外の人材や知恵、技術



チャリティショップ



スポーツ教室

をどうやって町に引き込んでいくのかが活性化のカギです。大学は町のパートナーとして学生や専門性を持った教員や、本学とつながりのある企業や個人も町とつないで、まちなか活性化を支援していきます」と梶先生。現在は梶先生自身が、地域の内外でまちづくりに寄与できるような個人や団体を発掘し、事業の企画という「種」を一緒にブラッシュアップさせて、実現までこぎつけるような支援を行っています。すでに、住民主導でチャリティショップを開催するなど、さまざまな企画が実施されています。

「まず、地域を掘り起こす、やりたいという志を掘り起こす」と感じます。大切なのは

可能性を引き出して 面白いまちづくりを

連携によって、さまざまな交流も生まれています。例えば、部活動やサークル活動、学生団体など、授業以外で自主的に課外活動をしている学生たちとの交流が始まっています。ソフトボール部やサッカー部などに所属する学生たちが、スポーツ教室を子ども向けに開催しています。多様なスポーツに触れる機会を創出することで、大学が持っているリソースを地域に還元していくことです。が学生自身も地域の課題に触れ、学ぶことは大きいと思います」と梶先生。地元の嶺北高校の生徒と一緒に、学生らが商店街のシャッターアートにチャレンジする、といったイベントも行われています。



次世代地域創造センター
地域コーディネーター
総合科学系
地域協働教育学部門
講師

梶 英樹

シャッター
アート



国際スタディツアー

交流 関係人口づくりとともに「国際」をキーワードにした地域づくりも実施されています。「本山町は町に強い思いを持った人が多く、良い資源もたくさんあって、潜在的な可能性を感じています。現状の問題解決プラス、将来を見据えたまちづくりの方向性を提案できることが、客観的なポジションにある大学の強みです。地区外の方も借りながら住民の方のパワーを集約すれば、相乗効果を発揮して面白いまちづくりができるのではないのでしょうか」と本山町の未来に期待を寄せます。

大阪府出身。関西大学法学部卒業。英国バーミンガム大学公共政策大学院公共経営学修士課程修了。大阪府庁、公益社団法人セーブ・サ・チルドレンなどを経て、2014年に高知大学に着任。主な研究テーマは、フاندレイジング戦略、非営利組織の経営に関する研究など。「本山町でのスポーツ教室では学生が子どもたちに合わせて、トレーニングを決めています。しっかりコミュニケーションも取っていて、大したものですよ」

第8回高知大学フォトコンテスト入賞作品

第8回高知大学フォトコンテストの入賞作品を決定しました。
今回のコンテストでは、75作品の応募がありました。
学内選考委員、学長、理事（広報担当）、広報・校友課による審査の結果、以下の5作品が入賞となりました。

募集テーマ:「あの頃も今も高知大」
募集期間:令和6年12月2日(月)～令和7年1月8日(水)
応募対象:高知大学生、卒業生、役員、教職員、元役員、元教職員
(非常勤職員・派遣職員も含む)



金賞

ガーデンキャンパス
—昔からの道—

撮影者:宮崎 彰

農林海洋科学部の初夏の夕暮れ、苔が輝く道。ここは学生の頃からよく通る、懐かしい風景です。



銀賞

走り出せ!

撮影者:POM

高知大学医学部ソフトボール部の2023年度西医体の際に撮影した写真です。青空の下で、性別学年問わず全員で優勝という目標に向かって掛け声を掛けながら走り出す瞬間を撮影しました。



大賞

Autumn vibes in Kochi

撮影者:Leli Hesti

The autumn vibes are still here... (with the clock in Oko-campus).
It was taken in the end of December 2024.



銀賞

新しい1日の始まり

撮影者:k

撮影場所は朝のグラウンドです。私たちは朝日が昇る前から朝練をしているため、朝からすごく綺麗な朝日を見ることが出来ます。是非、みなさんも見に来てください!



75周年記念賞

我が母校 撮影者:有辺 平

路面電車が偶然通りかかったの、思わず撮影。路面電車や、汽車でのアクセスのよさも、今年創立75thを迎えた高知大学がここまで発展してきた所以ではないだろうか。路面電車は私たちの大事な交通手段であると同時に、高知大学と共に私たちの成長を75年間ずっと見守ってくれている温かい「親」のような存在なのではないかと思った。

令和6年度高知大学広報顕彰制度「優秀広報貢献賞」受賞者

広報顕彰制度とは、高知大学の広報活動の活性化と一層の発展を目的として、本学の広報活動をけん引する優れた活動を行った教職員・学生（退職者・卒業生を含む）を学長が表彰する制度です。令和6年度広報顕彰制度について、学内で9件の応募があり、以下の2名が「優秀広報貢献賞」を受賞しました。



●受賞理由

学部2年生でありながら、魚類分類学をはじめ、魚類の生息分布に関する系統地理学などに関して多くの学会発表・論文執筆などの研究活動に加え、精力的な学外での講演やメディア、SNSによる発信を行っている。テレビ番組などへの露出も多く、その出演の際には自身が高知大学に進学した理由の一つとして、「魚類の分類学的研究の伝統」についてしばしば発言しており、広報効果は大きい。



2024年4月17日放送
(NHK高知「こういちばん キラリ・みず・こうち」)
理工学部 生物科学科2年 饗場 空瑠
※学年は令和6年度受賞当時のもの



●受賞理由

地震災害の研究者として、長年にわたり積極的に社会教育や啓発活動を行っている。テレビ番組や新聞への露出も多く、広報効果は大きい。地震のメカニズムなど学問的な活動だけでなく、防災教育という視点で幅広いターゲットに向けた活動を行うことで高知大学が地域に根差した、地域の問題に取り組む大学であることを示す広報活動としても大きく貢献している。



2024年4月18日放送
(高知さんさんテレビPRIMEこうち)
名誉教授
防災推進センター客員教授 岡村 真

高知大学創立75周年記念式典を執り行いました

2022年5月から2年半に渡り実施してまいりました「高知大学創立75周年記念事業」のフィナーレとして、2024年11月3日(日)に、本学創立75周年記念式典「気高く心躍る知に」を執り行いました。

会場となりました高知県立県民文化ホールオレンジホールには、出演者を含め、1,000人を超える方にご来場いただきました。

式典は、高知大学の源流である旧制高知高等学校の初めての入学式で江部淳夫初代校長が語った「感激あれ若人、感激なき人生は空虚なり」から始める歴史と、本学が目指す未来予想図を、よさこい演舞・ダンス・演劇などの表現によりお伝えしました。

よさこい演舞は「國土舞双」「空跳〜くどう〜」「よんでんグループ」「祭三代・IKU!」の皆様が、ダンスは、「スガジャズダンススタジオ」の皆様及びOcky様により、魅力的で躍動的なパフォーマンスを披露していただきました。

また、本学の課外活動団体「演劇研究会」による演劇でストーリーを装飾し、農林海洋科学部1年の谷脇めぶきさんによる学生代表スピーチで、達成したい夢について語ってもらいました。

改めまして、ご出演いただきました皆様、ご来場いただきました皆様、本学の活動にご協力を賜りました皆様、またこれまで本学とご縁のあったすべての皆様、心から感謝申し上げます。

これからも未来に向かって歩み続ける高知大学に、ご期待ください!

自然科学系農学部門の足立真佐雄教授と海洋コア国際研究所の萩野恭子特任講師が2025年の米国科学振興協会ニューカム・クリーブランド賞を受賞しました

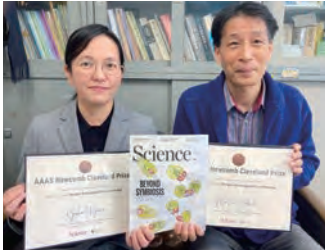
自然科学系農学部門の足立真佐雄教授と海洋コア国際研究所の萩野恭子特任講師が、2025年の米国科学振興協会ニューカム・クリーブランド賞を受賞しました。授賞式は、米国ボストンで開催された米国科学振興協会の年次総会において、2月14日(日本時間15日)に行われました。

ニューカム・クリーブランド賞は、1923年に制定された米国科学振興協会の最も古い歴史ある賞です。同協会が発行する科学雑誌『Science』に毎年6月から翌年5月に掲載された研究論文のうち、基礎科学の進展に深く貢献するデータや理論、広く影響を及ぼす技術的成果を発表した論文の全著者に対して贈られます。

足立教授と萩野特任講師は、カリフォルニア大学サンタクルズ校のJonathan Zehr

教授とともに、B. bigelowiiの細胞内に観察される窒素固定細菌由来の小体が、細胞内共生の域を超えてオルガネラ(細胞小器官)としての特徴を持つことを明らかにした論文、「Nitrogen-fixing organelle in a marine alga」の共著者として受賞しました。

この研究成果は、複雑な生命の進化において極めて重要であり、生物学では数回しか起こらなかったと思われるオルガネラの進化についての洞察を明らかにし、細胞生物学の理解を根本的に広げる発見であることが評価され、受賞につながりました。



賞状と論文が掲載された『Science』誌を手にする萩野特任講師と足立教授

医学部附属病院新病棟(D棟)完成記念式典を開催しました

2025年2月8日(土)、新病棟完成記念式典が開催され、学内外から約120名が出席しました。

式典では、花崎和弘医学部附属病院長の開式の辞から始まり、受田浩之学長の挨拶の後、小林克嘉文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課整備計画室長、平山耕三南国市長からご祝辞を賜りました。

次に施設概要の説明、病棟建設に尽力いただいた企業及びホスピタルアートを制作いただいたイラストレーターの小笠原まさきへ感謝状の贈呈、続いて祝電が披露されました。その後、テープカットが行われ、参加者全員で新病棟の完成を祝いました。

また、記念式典に参加された方々を対象とした内覧会も実施し、新たに設置される救急HCUやホスピタル

アートが紹介されました。

最後に餅まきが行われ、近隣住民の方たちがにぎわう和やかな雰囲気の中、式典は終了しました。

新病棟は、2月22日(土)より運用を開始しました。今後も新たな施設で安全で質の高い医療を提供します。



ホスピタルアートを制作したイラストレーターの小笠原まさきさん



2024年12月22日(日)にRKC高知放送で放送されました、創立75周年記念テレビ特別番組「気高く心躍る知に～高知大学創立75周年～」のアーカイブ映像を、現在YouTubeで配信しています。こちらからは是非ご覧ください。▶



自然科学系理工学部門の長谷川精准教授らの研究グループの研究成果が「Journal of Geophysical Research: Planets」誌に掲載されました

自然科学系理工学部門の長谷川精准教授らの研究グループは、火星周回衛星から得られた衛星画像を探索し、火星中緯度で地下水が豊富に存在する場所を精密に推定することに世界で初めて成功しました。

本研究では、火星周回衛星で撮像された衛星画像を利用して、地球の永久凍土(※1)帯に見られる周水河地形(※2)の分布を探索し、火星中緯度域の浅部地下に氷が豊富に存在する場所を精密に推定しました。

火星の浅部地下水は、2040年代に計画されているNASAの火星有人着陸探査時の水資源として利用可能であり、本研究で明らかにした地下水が豊富に存在する場所を、将来の火星有人探査時の着陸候補地として提案しました。

本研究の成果は、2030年代に計画されているJAXAの火星着陸機の着陸候補地の選定においても、重要なデータとして活用されると期待されます。

※1／永久凍土:少なくとも2年以上通して地温が0℃以下に保たれる土壌のこと。地表や地下に凍結した水分を含んでおり、氷が存在するため、周水河地形が発達しやすい。アラスカやカナダ、シベリアなどの寒冷地に分布。

※2／周水河地形:氷が地下にあることによって形成される特殊な地形で、永久凍土帯に多く見られる。火星の中緯度でも地球に似た地形が発見されており、地下水の存在を示唆する指標として利用されている。



浅部地下水を水資源として利用する将来の火星有人探査のイメージ図

パリ・オリンピックの女子レスリング金メダリスト 櫻井つぐみ選手が来学されました

2025年2月25日(火)、女子レスリングの日本代表選手としてパリ・オリンピック2024に出場し、見事金メダルを獲得した櫻井つぐみ選手が来学されました。

櫻井選手は春から本学の大学院スポーツ・芸術文化共創専攻に進学が決まっており、ご家族と一緒に本学を訪れ、受田学長や専攻の教員と懇談されました。

4月からは主な拠点を高知に移し、引き続き選手として練習を重ねながら指導者としてもスポーツとの関わり方を学び、地域の方や子どもたちにレスリングやスポーツの楽しさを伝えていきたい、と今後の抱負を聞かせてくださいました。また「大学院に進学することを想像以上に沢山の方が喜んでくれて、その期待に恥じぬよう精いっぱい励みたいと思います」と力強いコメントをいただきました。

これを受けて、受田学長は「多彩な学生が集う専攻で地域とスポーツを学びつつ、キャンパスライフもしっかり楽しんでほしい。これからの活躍も楽しみにしています。」とエールを送りました。



櫻井つぐみ選手と受田学長